横浜市立 篠原中学校　　令和5年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

・自分をつくる 【知】【体】
　自己をしっかり見つめ、個性ある存在としての自分を確立していく。
・想いをはぐくむ 【徳】
　自分だけでなく他者に対する気持ち、接し方、態度などを育てていく。
・未来へつなげる 【公】【開】
　他者との関わりや学びあいを通じて、社会の中にある自分を次のステップへ進めていく。

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
・自分づくりに関する力 ・日本や世界の発展に平和的に寄与しようとする心 ・持続可能な社会の創造に貢献しようとする態度	・自分づくりに関する力 ・日本や世界の発展に平和的に寄与しようとする心 ・持続可能な社会の創造に貢献しようとする態度

中期取組目標

全教職員で安全・安心、活力と魅力のある学校づくりと学校経営安定化を目指し、
◎グローバル社会で生き抜くために、本物体験を通して多面的な見方、考え方のできる生徒を育てるようにします。
　・互いがかけがえのない存在であることが実感できるように、関わりを大切にした集団活動や体験的な活動の充実を図ります。
◎教師の授業力の向上を図り、学ぶこと、分かることの楽しさを生徒が実感できるようにします。
　・生徒が意欲的に学ぶことのできるように、ICT機器の利活用を図りながら、場、形態、教材の工夫をした授業を実現します。
　・「指導と評価」の一体化を図り、日常的にPDCAを意識し、生徒の資質能力を伸ばす信頼される評価を目指します。
◎教職員一人ひとりが学校運営に参画し、生徒が安全・安心して心豊かな学校生活が送れるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知 担当　学習指導部	①教科での授業研究等を通して、子どもの対話的な活動を取り入れ、主体的に考え表現できる、教材の工夫を行い、授業力向上を図る。②新学習指導要領に基づく評価方法の情報交換や研修を継続し、より効果的な実践を行う。③全学年を通して、朝学習を実践することで、補充的学習の質を高め、基礎学力の向上や学習習慣の定着化を図る。

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力の概要と要因の分析
　学力については、各教科とも合計得点は市平均を上回っている。ただ、設問によっては市平均よりも正答率が下回るものもあった。また、生活意識や学習意識の中で、学年によって市平均を下回る項目もあり、各学年においても要因の分析と対応が必要である。さらに、教科・学年によっても差が生じているので、小中ブロックで育成すべき子どもの姿を地域や教科間で共有しながら、今後さらなる授業改善に努め、教職員全員による組織的なカリキュラム・マネジメントを推進していく必要がある。

(2) 教科学習の状況
　各教科ともに学習意識が高く、学力も比較的高い。しかし、「学校の授業に進んで取り組めているか。」「学習したことを、日常生活や社会生活の中で活用しようと思うか。」の項目については、市の平均よりやや薄い傾向が見られる。授業の学びを身近な生活や社会につなげる視点や、主体的に考え、表現できる活動を授業の中に取り入れるなど、全教科をあげて授業改善の工夫を行うことが必要である。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）
家庭での生活習慣についてはほとんど市平均を上回っており、家庭教育力の高さがうかがえる。また、昨年度が市平均を下回ってしまった「始めたことを最後までやり遂げる」「真面目にこつこつ取り組むことができる」生徒の割合が市平均と同じぐらいになったことも昨年度の成果と言える。しかし、市平均を下回る項目もあり、各学年での対応も求められる。具体的には、1年生は「朝食の有無」が市平均を下回っているので、食育を日頃から行う必要がある。また2、3年生は「1日の読書量」が市平均を下回るので、読書週間をはじめ様々な取組を行う必要がある
他にも、「自分が好きか」「自分には良いところはあるか」という項目も、市平均と同じぐらいの値を示していることから引き続き自己肯定感の醸成、自主性・自立性を高められるような声掛け・取り組みの工夫が今後ますます必要と考えられる。

今年度の目標

教科内容や評価の研究、学習状況調査の分析により、
授業改善や学習意欲向上につなげる

目標を実現するための具体的行動プラン

通年	国語…基礎基本の定着を図り、また他者との対話を通じて、自分の考えを深め、広げられるような学習活動を取り入れる。 社会…書く・見る・読む・話すを分離させず、他者との対話的な活動を通じて、自分の考えを深め、深い思考力を育成できる授業展開を実施する。 数学…TTの授業を活用したり、日頃の授業で円周の時間を多く設けたりして、個々に応じた課題設定を行い、学習内容の定着に努める。 理科…実験などを通して、目標や実験計画の作成に努め、主体的かつ積極的に学ぶ場面を設定する。 音楽…歌唱・器楽・創作の活動を通して、生徒が主体的に考え、実技で表現できるよう支援する。 美術…生活や社会の中の美術の働きに気付かせ、生徒一人ひとりが主体的に表現主題を追及するとともに、美術で育んだ造形的な視点が将来の生き方につながるような授業づくりを行う。 保体…自分の体の状態について振り返り、継続的な柔軟やトレーニングを授業で行い、前後の変化を確認する。 技術家庭…実践的・体験的活動の充実を図る中で、生徒自ら課題解決できるような題材を設定する。 外国語…コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、生徒が主体的に表現する授業を展開する。継続的な取組において、自分や相手のことについて、その場でやり取りできるような学習活動を行う。 道徳…道徳科の授業で、道徳的な価値について主体的に多面的に考えられる力を育てる。 特活…所属する集団で課題を見出し、その解決のために話し合い、合意形成を図り、他者と協働して、意思決定する活動を設定する。 総合…探求的な学習の過程を通して、わかる喜び・できる喜びを理解するようにする。地域との関わりの中から課題を見出し、解決のための見通しをもって情報を集め、整理・分析・まとめ・表現することができるようにする。お互いのよさを生かしながら、思いやりを伴った自己表現力を養う。 個別支援級…個別の指導計画に基づき、個々の実態に応じて指導形態や学習集団構成を工夫し、指導の充実を図る。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心 担当　道徳・人権・国際理解係	①道徳授業の工夫や改善を図り、教育活動を通じて、生徒の人格形成の基盤となる道徳的な心情や意欲、態度、習慣などを醸成と育成を図る。②一人ひとりを大切にした人権尊重の精神を身に付けるための取組（国際理解教育とよこはま子ども国際平和プログラム、人権作文、人権学習など）を実践する。

豊かな心に関わる本校の状況

全体的には落ち着いた生活態度である。指導されたことには従うが、何事にも指示待ちの姿勢が目立つ生徒が多い。
市学力学習状況の意識調査の市の割合と比較すると「自分以外の人のためになることをしたい」「地域の行事に参加しています」はやや下回り、「何事も最後までやりとげます」「自分には良いところがあります」はほぼ同じ、「あいさつは自分からしています」「人とコミュニケーションをとることは好きです」「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」はやや上回っている。
結果、生徒の豊かな心に関わる本校の状況は市の平均的な状況と同じ実態であることがわかる。
道徳の授業や人権学習でも生徒は落ち着いた取組で、道徳的価値（内容項目）を学んでいる。
さらに、そのような学習から道徳性を養い、行動できる豊かな心の育成を推進していく取組を必要としている。

今年度の目標

道徳の授業や人権学習、国際理解教育の取組を通じて、道徳的な価値観を身に付け、日常の学校生活のなかで行動として具現できる豊かな心の育成を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

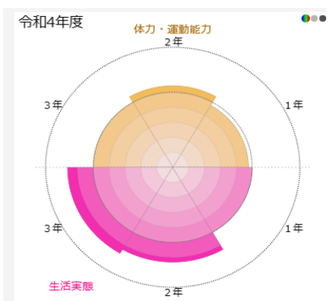
上半期	【道徳教育（上下半期通して）】道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育 ・学年ごとに道徳指導や教材の研究に努め、授業改善を図る。 ・道徳的価値について生徒自身が進んで考えるようにするために教科書「新しい道徳」の単元学習を活用して、道徳的価値に基づいた豊かな心の育成を図る。 ・よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト参加への促進を図り、国際社会について考えるきっかけにし、自らの実践や発信につなげていける力を育成する。 ・全校生徒参加の人権作文の取組で、人権尊重への理解を深めるとともに、人権意識を身につける。 【豊かな感性や情操の育成（上下半期通して）】 ・生徒の読書活動の充実をはかります。 【体験学習の充実（上下半期通して）】 ・地域でのボランティア活動に生徒が進んで参加できる機会を増やす。
下半期	【確かな人権意識の育成】 ・生徒向けに「人権学習」を実施し、豊かな人権感覚を育成する。 ・教職員向けに人権研修会を実施し、人権尊重の理解を深める。 【体験学習の充実】 ・1年次は「職業人に学ぶ」、2年次は「職業学習」、3年次は「キャリア学習」を行う。 　将来に向けての職業観、勤労を尊重する心、社会貢献への広い視野を育成する。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体 担当　保健体育科・養護教諭	①規則正しい生活をしようとする態度を養うとともに、昼休みや学年の集会活動など楽しく体を動かす活動を取り入れ、進んで運動しようとする態度を育成する。②生涯にわたり、運動に関わろうとする姿勢を育てる。③運動の楽しさや必要性を感じ、自ら進んで取り組む姿勢を養う。④自己の健康のために、主体的に課題解決できる子どもの育成を目指し、保健体育科を中心とした健康に関する教科等の授業改革を図る。またプロのダンサーを招いて授業を行い、本物に触れることにより、運動への興味を掻き立てるとともに

健やかな体に関わる本校の状況

・保健体育の授業では、見学者は少なく、授業への積極的な取り組みがみられる。
・地域にはスイミングスクール・野球場・サッカー場・スケートリンクなどの施設があり、地域クラブへの参加生徒も多い。
・体格は、横浜市の平均に比べ大きな違いはなく、各学年ともに平均であるといえる。しかしながら体力得点合計も市の平均とほぼ変わらないものの、持久力については市、全国の平均値よりも低い状況である。
・生活習慣については、朝食は毎日食べている生徒が全体の85%と多く、また睡眠時間も全体の85%の生徒が6時間以上の時間を確保している。



今年度の目標

運動の楽しさや必要性を感じ、自ら進んで取り組む姿勢を養う。自己の体力向上、健康の保持増進のために主体的に課題解決ができる子どもの育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	新体力テストの結果をもとに自己の体力を分析し、自分で実践できる運動や生活習慣について考え、実行する。具体的には体育理論の授業で自己に適したトレーニングの方法を考えたり、体育の授業で苦手としている持久力や投動作で必要とされる巧緻性、瞬発力などを高める運動を積極的に導入していく。
下半期	上半期の活動を振り返り、自己の計画を修正する。 体育の授業では引き続き苦手としている持久力や投動作で必要とされる巧緻性、瞬発力などを高める運動を積極的に導入していく。特にこの時期は球技の領域に入っていくので、授業前のウォーミングアップの中に投動作を入れていく。